

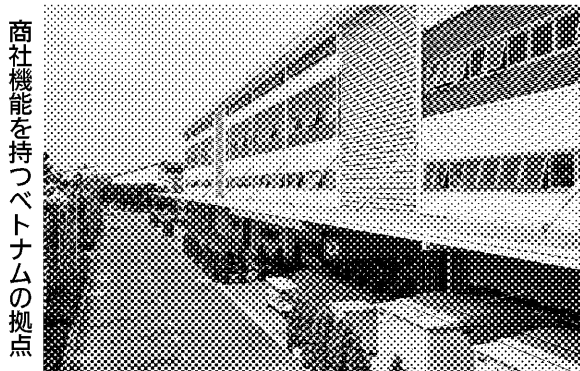
栄工業、海外事業を拡大

車載電池 部品など タイ・マレーシアに販路

【大津】栄工業（滋賀県守山市、木浦晋一社長）は、海外での販路拡大を本格化した。このほどタイでの営業活動をはじめ、2023年4月までにマレーシアで営業所を開設する。同社は精密板金加工を主に、車載用リチウムイオン二次電池や半導体、食品関連の製造装置向け部品を手がける。タイとマレーシアに現地法人を持つ日系企業をターゲットに、現地と日本の両側から商流構築を目指す。25年4月期に海外売上高比率を現状比2倍以上の2割程度に高める。

日系企業にターゲット

日本本社での加工の現地サプライヤーからほかに、ベトナムの拠 仕入れた部品を本社に点（ホーチミン市）は輸出する商社機能を持



商社機能を持つベトナムの拠点

つ。本社で使う検査器の高品質な部品を本器具で検品した日本基準から各顧客へ納めている。

ベトナムで検品した部品は現状すべて本社向けだが、今後は独立採算で運営していくためにタイとマレーシアへ販路を広げる。タイ営業所は20年4月に開

設しており、コロナ禍で滞っていた活動を再開。当面は日本とベトナムの人員が出張やり取りなど営業活動を行い、軌道に乗った段階で現地採用を計画。コロナ禍で浮いた営業経費を営業所開設に振り向け、レンタルオフィスなどで初期投資をおさえた。

同時期にミャンマーにも営業所を設けたが、21年2月に軍事クーデターが勃発したため、場所だけ確保した状態でいったん活動を停止。代替地として、日系企業が多く進出するマレーシアのクアラ Lumpur 周辺に営業所を構える予定だ。

タイ・マレーシアとともに、すでに数社契約が決まっており、ベトナムでは既存の拠点とは別に車載用電池部品向けの専用工場立ち上げも計画する。